

暴力行為の状況

暴力行為・・・「対教師暴力」「生徒間暴力」「対人暴力」「器物損壊」の４形態をいう。

区分	発生件数 【件】	加害児童 生徒数【人】	発生学校数 【校】
小学校	25 ㎁+9 (0.48)	11 ㎁-2	3 ㎁-2
中学校	77 ㎁-45 (3.50)	71 ㎁-50	10 ㎁-7
計	102	82	13

（ ）は１校あたり ㎁ は前年度比

※今年度より「調査Ⅱ いじめの状況」で、「ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする」に計上されたものは全て、暴力行為とするよう、東京都が見直しを図った。

「対教師暴力」

区分	発生件数 【件】	加害児童 生徒数【人】	発生学校数 【校】
小学校	6 ㎁±0	4 ㎁-1	2 ㎁-2
中学校	0 ㎁-8	0 ㎁-5	0 ㎁-3
計	6	4	2

「生徒間暴力」

区分	発生件数 【件】	加害児童 生徒数【人】	発生学校数 【校】
小学校	16 ㎁+12	5 ㎁-2	2 ㎁-1
中学校	73 ㎁-14	69 ㎁-19	9 ㎁-9
計	89	74	11

「対人暴力」

区分	発生件数 【件】	加害児童 生徒数【人】	発生学校数 【校】
小学校	0 ㎁±0	0 ㎁±0	0 ㎁±0
中学校	1 ㎁±0	0 ㎁-1	1 ㎁±0
計	1	0	1

「器物損壊」

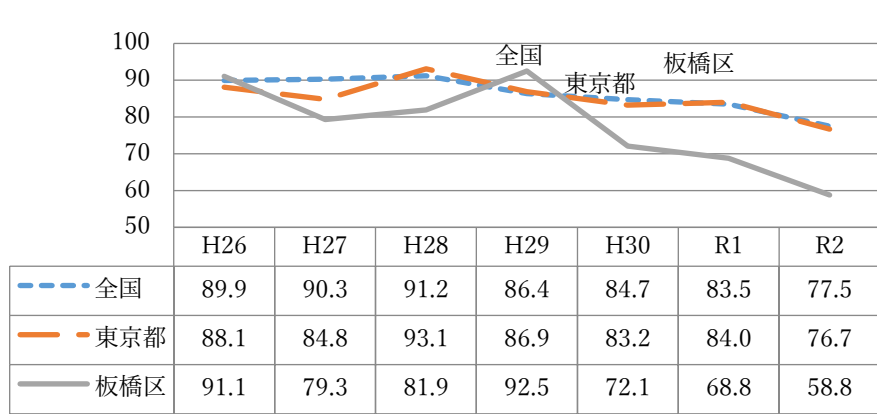
区分	発生件数 【件】	加害児童 生徒数【人】	発生学校数 【校】
小学校	3 ㎁-3	3 ㎁-1	2 ㎁-1
中学校	3 ㎁-23	3 ㎁-31	3 ㎁-9
計	6	6	5

「いじめ」の状況

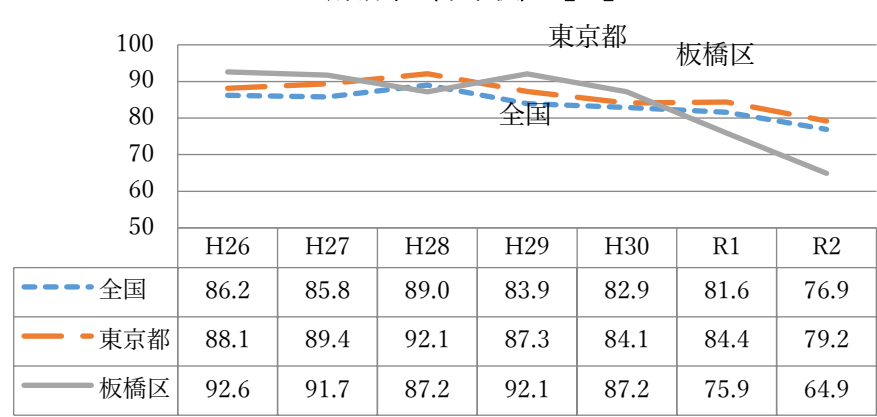
区分	認知件数 【件】	解消件数 【件】	解消率 【％】
小学校	2834 ㎁-2262 (54.50)	1667 ㎁-1841	58.8 ㎁-10
中学校	211 ㎁-204 (9.59)	137 ㎁-178	64.9 ㎁-11
計	3045	1804	59.2

（ ）は１校あたり ㎁ は前年度比

いじめ解消率（小学校）【％】



いじめ解消率（中学校）【％】



いじめの定義

児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人間関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。

解消の定義

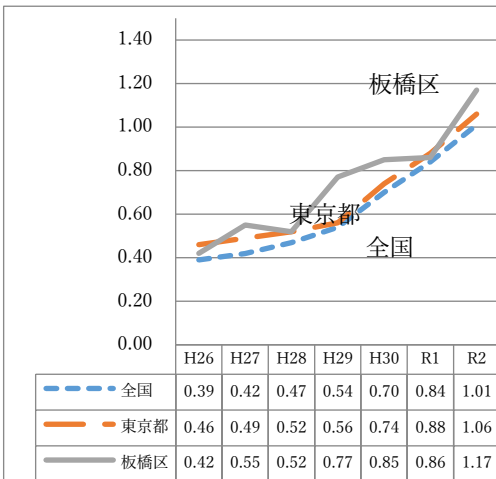
「解消している」状態とは、被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）が止んでいる状態が相当の期間（少なくとも３か月を目安）継続していること及び、被害児童生徒本人及びその保護者に対し、心身の苦痛を感じていないかどうかを面談等により確認し、被害児童生徒がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められること。

「不登校」の状況

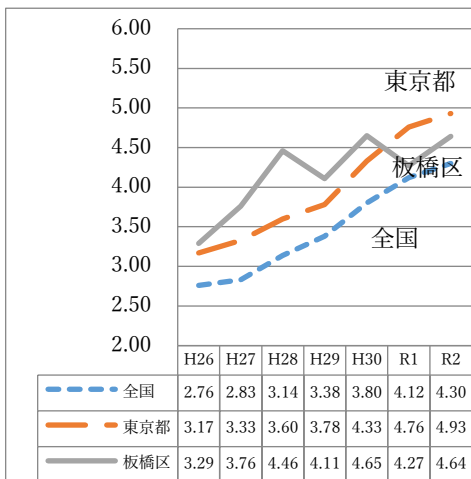
区分	不登校児童 ・生徒数【人】	出現率 【％】	学校復帰率 【％】（人数）
小学校	275 ㎁+76	1.17 ㎁+0.31	26.5 ㎁-3.1 (73人)
中学校	424 ㎁+43	4.64 ㎁+0.37	32.3 ㎁+8.7 (137人)
計	699		

㎁ は前年度比

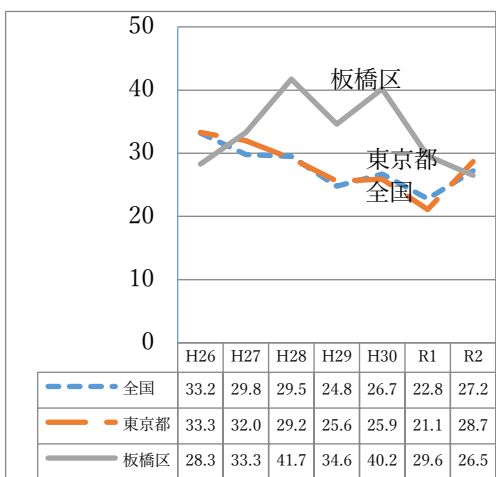
不登校出現率（小学校）【％】



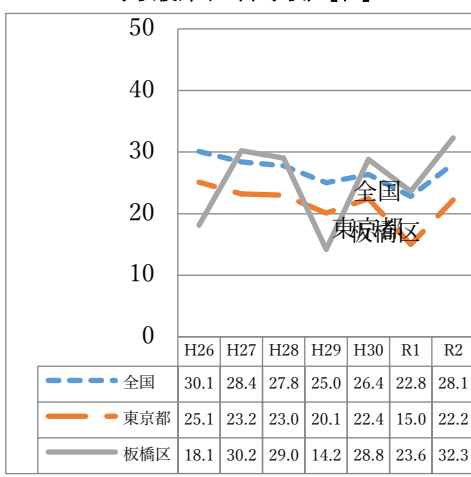
不登校出現率（中学校）【％】



学校復帰率（小学校）【％】



学校復帰率（中学校）【％】



不登校の定義

平成３１年４月１日から令和２年３月３１日までに３０日以上欠席した長期欠席児童・生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童・生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況にあることをいう。ただし、病気や経済的な理由によるものを除く。

復帰の定義

「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」とは、「２学期の前半までは月に１回程度しか登校できなかったが、担任が家庭訪問を繰り返す中で将来の進路などを自ら考えるようになり、その後、週に１回程度は登校するようになった。」等、継続的に登校できるようになったと認めた者をいう。